

地域とともに歩むスカウト運動

～地域連携ハンドブック～



そなえよつねに
ボーイスカウト

人と地球に
よりよい未来を

人と地



日本にはいまこそ、ボーイスカウトが必要です。

国内では少子高齢化の勢いが加速し、世界各地では分断、紛争、自然災害などが後を絶たないなど、明るいニュースが少なくなっています。しかし、世界では5200万人以上がスカウト活動を通じて、自分の人生を切り拓き、よりよい未来を創り出すために、人づくり・地域づくりに取り組んでいます。なかでも地域の中に設置されている団は、地域と連携するからこそ、地域になくてはならない存在となっています。このハンドブックでは、地域連携を進めていくための手立てをいくつもヒントとして提示していますので、このなかから一つでも二つでも実践していただくことから始めてみてください。

◆ボーイスカウト運動が目指すもの◆
ボーイスカウトは、地域に根差して活動しながら、世界中でともに活動する仲間と繋がっているローカルにしてグローバルな活動です。子どもたちの好奇心や探求心に応える自然の中での活動や、社会奉仕などの体験を通じて、心身ともに健全な青少年を育てるこことを目指した世界的な社会教育運動です。

ボーイスカウトは、人と地球によりよい未来をつくる青少年教育運動です

「育てよう、生きる力と活ける力」

ここでしか学べないスキルと体験から、リーダーシップを育みます

「やりたい」を叶え、
主体性を身につけます

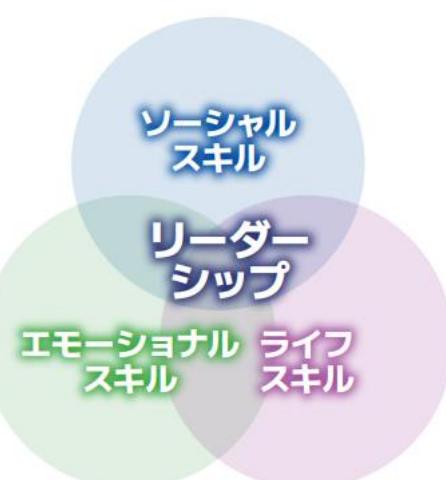
自分で考え、自分で決めたことを自分
で進められるようになります。

「協調性」を育み
自分たちで解決します

相手の気持ちを思いやり、お互いに助け合います。

「自己肯定感」を高めます

自信を持って、ものごとに積極的に取り組めるようになります。



世代をこえた仲間との
関わりがあります

学校以外の友だちがたくさん
でき、さまざまな人の関わり
を得ることができます。

自立して、自分のことは
自分でやります

自分で色々なことができるよう
になり、しっかりと自立をして
いきます。

万一のためのサバイバルスキル
万一の災害時にも助けとなる
スキル、心を身につけます。

球によりよい未来を



◆人と地球によりよい未来を◆

ボーイスカウトは、人と地球によりよい未来をつくる世界最大級の青少年教育運動です。

“人”のために、よりよい未来をつくる

ボーイスカウトは、すべての人にひらくかれている歴史のある安心・安全な運動です。

そのようなプラットフォームを生かして、社会に出てから役立つ力と心を育てていきます。社会に貢献する活動を通じて、人々の役に立ち、未来を担っていく人を育て社会に送り出します。

“地球”のために、よりよい未来をつくる

日本のみならず、世界各地で活動する仲間ができます。野外活動を通して自然とふれあい、地球を感じながら多くのことを学ぶ機会があります。

学んだことを生かして、SDGs等の地球の未来を考えたプログラムを開発しています。

◆他の人の役に立ち、社会に貢献する活動です◆

ボーイスカウトは、いつも他の人々の役に立つことを目指しています。人の役に立った経験・学びは、未来の自分を支え、さらに大きな社会貢献につながります。

[教育支援]

成功や失敗から学ぶ楽しみを

[環境保全]

豊かな自然に感謝を

[災害支援]

いざという時に行動できる勇気を

[地域福祉]

だれかを笑顔にする喜びを
地域と連携しながら活動しています。地域の方々・施設への支援も行います。

親切

「親切と親しさは大きな美德だ」というスペインの古いことわざがある。また「相手がだれでも差別なく好意を示せ」つまり相手の大小貧富を問わず、だれでも親切にしたまえというものである。

騎士の偉い点は、いつも人々に親切にし善行をしていたということだ。人はだれでも死ななければならぬが、その時が来るまでに、何か良いことをしようと決心しなければいけないというのが騎士の考え方だった。いつこの世を去るかわからないのだから、今すぐそれをしておけというのだ。

そこで、スカウトにとっても、いつも他の人を助けることが「ちかい」の一つになっている。善行は、たとえば老婦人が荷物を持つのを助けるとか、混雑した道路を横切る子供を安全に導くとか、慈善箱に小銭を入れるとかという小さなことで良いのだ。

善行は、一生の間毎日続けるべきものだ。この「さだめ」を今日から実行し、一生忘れてはいけない。ネッカチーフの結び目とスカウト章の結び目を忘れないようにしたまえ——善行を忘れさせないためのものなのだ。そして、善行は友人に対するだけではなく、知らない人にも同じようにしたまえ。

”地球”のために、よりよい未来をつくります

ボーイスカウト活動は”地球”のために
よりよい未来をつくります。

主な活動場所として展開している「野外活動」では、地球と寄り添い、多くのことを学ぶ機会があります。同年代の仲間と自然の中で活動することによってリーダーシップ、協調性、社会性などを活動で体感し、身に付けます。不便なことが多い野外の中で、快適に過ごすために自分の役割を見つけ、他の人の役に立つことの大切さを学びます。



◆地域にスカウト活動があつてよかったです!!◆



「寄付や支援」を呼びかけることは、自分たちだけでなく、他の人々にも社会課題の解決に参画してもらう機会を提供することになります。また「呼びかけ」すること自体が、社会課題があることに気づき、自分事にしてもらうきっかけを与えることもあります。

地球で、地域で、社会課題の解決に挑戦するスカウトが活躍することで、地域の皆さんにとっても「なくてはならない存在」として地域の一員を担うようになっていきたいと思います。

↓ まだ取り組んでいなかったら是非取り組みましょう!! ↓



イオンの黄色いレシートキャンペーン

自分の買い物でだれかを幸せにするしぐみ。呼びかけすることによって、地域にボーイスカウトが存在していること、地域に役立つ活動をしていることを知ってもらい、支援投票によって、意思をもって活動を応援してもらい、黄色いレシートを通じて地域の人々に「支える」という活動に参画してもらうことになる。

<https://www.aeon.info/sustainability/social/yellow/>

”地球”の未来を考え、”地域”で行動します



[スカウトの日 ～プラごみバスターZ]

ごみの回収の循環から外れてしまつたプラスチックごみの撲滅活動を全国一斉に取り組んでいます。

[難民支援衣料回収 プロジェクト]

ユニクロ×UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)×ボーイスカウトで連携して、全国から衣料品を回収しています。ユニクロ店舗を通じて、回収した衣料は難民キャンプへお届けすることができました。

[全国防災キャラバン]

イオンモールとボーイスカウト日本連盟が、地域の防災力向上に寄与するため、「防災」をテーマに全国のイオンモールで開催しています。

◆地域連携の事例◆

・地域のなかで顔と顔が見える関係を保つ事例

例えば地域の中にある消防署・警察署・図書館等の公共施設をマップで確認して、スカウトと共に訪ねて、業務内容を理解して地域に存在しているスカウトの団を知ってもらておく、地域の老健施設・福祉施設・児童の居場所などを訪ねて、定期的にボランティア・公共奉仕できる機会を持っておく、団のある自治会・町内会を訪ねて団本部で有事があった際の協力関係を話し合ったり避難訓練などの災害時シミュレーションを行っておくなど

・地域の求めに応じた協力事例

例えば地域のお祭りへの参加、市民マラソンへの沿道警備、記念式典への国旗掲揚などの役割提供 など

・地域との協働で実現できる活動事例

例えばイオンの黄色いレシートキャンペーンを通じて、活動支援を呼びかけ、支援投票を通じて地域での活動をしitもらう など

・地域の他の団体と連携した活動事例

例えば地域の居場所を提供する団体と子ども食堂の開催を一緒に行う、地域の防災訓練で避難所運営の一翼を担ったり、テント設営、炊き出しなどの役割を担う、地域の奉仕団体と連携して安全に国道のカーブミラー清掃やごみ回収を行う、災害支援などの募金呼びかけ など

・スカウト活動のスキルを活かした連携事例

例えば食品会社と連携したアウトドアクッキングレシピコンテストやアウトドアメーカーと一緒に開催する体験キャンプ など

そなえよつねに

「そなえよつねに」のモットーを覚えていたまえ。起こりそうに思われるいろいろな事故の対策を前もって習って、常に備えておきたまえ。事故が起おこった瞬間に、正しい対策ができるように備えておきたまえ。

私がいろいろな種類の事故にどうしたら良いか教えるから、できるだけそれを練習し手おかなければならない。しかし、君たちスカウトに大事な心がけは、どこにいようと何をしていようと「ここでどんな事故が起こるだろうか」そして「もし起おこったら何が自分の義務だろうか」といつも考えることだ。そうすれば、すぐに行く備えができているのだ。そして本当に事故が起おこったら、誰よりも先に助けに行くのが、スカウトのつとめだということを覚えて生きたまえ。

スカウティング・フォア・ボーイズ 第VIII章 人命救助 キャンプファイヤー物語 23 より

未来を拓く”助成金”を活用する

◆未来へジャンプ!!するために◆

団や県連盟などが助成金を獲得することも、地域に青少年育成活動を行っている存在をアピールして、第三者の機関がその役割や活動に「お墨付け」を与えたこともあります。

お預かりした助成金をもとにしっかりとした活動を行って、その成果を報告するとともに、生み出した成果についても地域の中で報告会などを行うと、地域に幅広く理解をしてもらえるきっかけになります。



◆助成金を申請のポイント◆

やってみたいこと

例：野外活動の装備を充実させたい。
指導者向けの講習会をしたい。地域の防災をボーイスカウトとして主導したい。障がいのある方と一緒に活動する機会をつくりたい。

ビジョン・ミッション

例：田植え体験をさせたい

実現したら

問：それが実現すれば、誰にとってどんな良い影響がありますか？スカウトの成長？指導者の負担？地域への貢献？

課題・解決策

例：農家の高齢化が進む中で、地元の農家の方々と交流しながら、子どもたちが実際に田植えを体験することで、直接交流機会が生まれ、地域の産業に対する理解を深める。

何があれば

問：その実現には何が必要ですか？人手？新しい道具？実施場所？それにはお金がかかりますか？

参加・調達

助成金を審査する審査員の気持ちで申請書をチェックする

一定の期間で成果が出るか
→なぜ、応募してきたのか？

ビジョン・ミッション

新たな試みがあるか
→なぜ、今、必要なのか？

課題・解決策

※既存の活動の場合は、助成金によって、どんな変化が生み出せるかを明確にすることが大切。

どれくらいの影響があるか
→なぜ、この団体を支援するのか？

受益者だけでなく、地域や社会にどんな影響を与えるか

ボーイスカウトで応募できる助成金情報まとめ

<https://www.scout.or.jp/member/joseikin-matome>

「スカウトハンドブックの記載事例」

ボーイスカウトたちが使っている「スカウトハンドブック(ベーシック)」には、スカウトが行うゲームとして以下が紹介されています。



◆地域の広報大使になる◆

スカウト運動は世界につながっているので、国内に発信できるプログラムがたくさんある。きみが世界の仲間たちに日本のことを見せてること。それも立派に世界につながる方法だ。

そこで、次のような活動があるので、班の仲間と挑戦してみるとよいだろう。

きみの前にきみの住む市(あるいは区、町、村など)の市長が現れ、「きみたちボーイスカウトに、我が市の広報大使をお願いしたい」と言ってきた。きみたちは、今から住んでいる地域の広報大使として、ボーイスカウトの役務を果たさなければならない。市長からは、「きみたちに広報大使として、来月に開かれる市「ふるさと紹介記者発表」でアピールしてほしい。」といって、市長は帰っていった。

1.班で発表するテーマを決める

市の名所、自然、特産品、工芸品、文化、施設…。紹介したいものはたくさんあるが、テーマを一つ決めよう。

2.ボーイスカウトラしく発表する

調べたことをただ発表するのではなく、ボーイスカウトラしく考えてみよう。例えば、名所ハイキングであれば、実際にハイキングコースを設定して、地図を作成する。あるいは、名物の食材を使った野外料理のレシピとともに、実際に料理を味わってもらうなど、きみたちがふだんの活動からできることは、きっとたくさんある。

3.上級編への挑戦

住んでいる市以外のところの広報大使になってみよう。遠く離れた町や村もよいだろう。そして、海外の国でもよい。

地域で信頼を得るために

- 助成金を受け取る
- 地域で顔と顔がみえる関係
- ユニクロ衣料回収
- イオンイエローレシートの呼びかけ
-
-
-
-



ボーイスカウトとは

ボーイスカウトは、人と地球によりよい未来をつくる世界最大級の青少年教育活動です。

世界176の国と地域で5,700万人以上の仲間が活動しています。

人と地球によりよい未来を

ボーイスカウトは野外活動を中心とした各種プログラムを通じて、青少年が知識や技能を身につけ、自主性や協調性を育むことで成長を支援します。私たちは、人や社会のため、地球のために行動できる人材を育て、社会に送り出すことを目指しています。